

ふなかわら

第28号

2016年6月15日発行
編集・発行 石井甲一
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内
印刷・菅原印刷㈱



CONTENTS

1. 平成28年熊本地震からの早期復興を願う (石井 甲一) … 2	放射関係研究室同窓会のお知らせ …… 18
2. 病院薬剤師人生の思い出 (小高 賢一) …… 3	平成27年度地区交流会報告 …… 18
3. 学科主任挨拶 (花輪 剛久) …… 4	第20期同期会報告 …… 19
(青木 伸) …… 4	理大薬学部第5期生 同期会の皆様 …… 19
4. 平成28年度同窓会総会および講演会のご案内 …… 5	第39期生同窓会の報告 …… 20
5. 薬学講座のご案内 …… 6	3期同期会報告 …… 21
6. トピック …… 8	24期同期会報告 …… 22
研究室紹介 岡 (薬理学) 研究室 (岡 淳一郎) …… 8	福室研同窓会報告 …… 22
恩師からのたより (原 博) …… 9	11. 平成27年度同窓会通常総会について …… 23
7. 卒業生報告 …… 12	12. 平成27年度同窓会講演会について …… 24
近況報告 (桃谷 誠一郎) …… 12	13. 会員名簿について …… 26
8. 退任のご挨拶 (浅田 善久) …… 14	14. 薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています …… 26
(廣田 孝司) …… 14	15. 会費・寄付納入者一覧 …… 27
9. 新任の挨拶 (羽田 紀康) …… 15	16. 終身会員一覧 …… 27
(横山 英志) …… 15	17. 訃報 …… 31
10. 同窓会だより …… 16	18. 寄稿 …… 32
平成28年度地区交流会のご案内 …… 16	物理学学校と小説『坊っちゃん』
9期同期会開催のお知らせ …… 17	～夏目漱石没後100年によせて～ (河部 秀男) …… 32
お知らせ 14期同期会 …… 17	19. 氏名・住所・異動等変更届 …… 35
東京理科大学薬学部15期生の会開催のご案内 …… 17	20. 同窓会幹事一覧 …… 36
理科大薬学部16期同期会 会告 …… 17	21. 編集後記 …… 36
理科大薬学部21期同期会 会告 …… 18	

平成28年熊本地震からの早期復興を願う

東京理科大学 薬学部 同窓会会長 石井 甲一



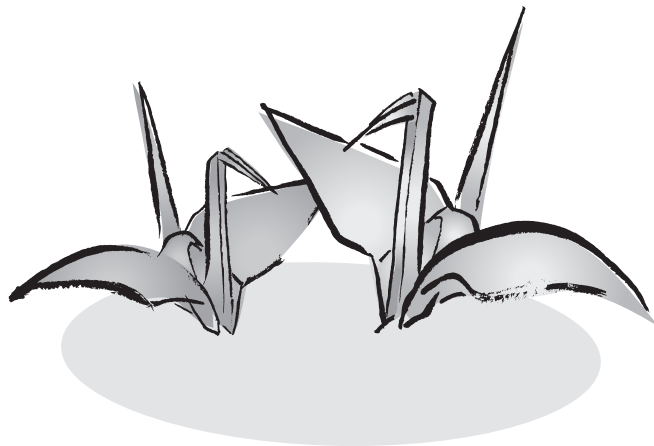
4月14日夜と16日未明に震度7という想像しがたい大きな地震が熊本県で発生しました。テレビニュースで知り、直ちに熊本県の薬剤師会関係者、理科大の先輩等に電話を差し上げました。阪神淡路大震災や東日本大震災の時と異なり、携帯などの電話連絡が出来たことは、不安感を薄めてくれ、その後の外部からの支援も過去の経験を踏まえ、比較的スムーズに展開できているのではないかと感じています。

日本薬剤師会では、15日に災害対策本部を立ち上げ、現地に派遣した役員を通じ、熊本県薬剤師会の災害対策本部からの情報収集と今後の対応策を検討しました。具

体的には、全国からボランティア薬剤師の派遣、モバイルフーマシー（災害対策医薬品供給車両）の派遣、OTCの供給要請と救護所等への供給等を行い、薬剤師の派遣は5月末まで継続することとしています。

現地では、余震が続いており、5月2日現在、震度1以上の地震が1,000回を超えています。被災者の皆さんの不安が消える日が待ち望まれます。

被災者の方々の中にも、同窓会の会員もおられるかと思えます。心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を願っております。



病院薬剤師人生の思い出

医療法人社団 三成会新百合ヶ丘総合病院
薬剤科 顧問 小高 賢一



私が東京理科大学薬学部を卒業して今年で40年が経過しました。その間、病院一筋に勤務してまいりました。大学4年生の時に所属していた薬物学教室の久保田和彦教授の御紹介で国立東京第二病院（現：国立病院機構東京医療センター「以下、東二と略す。」）に面接に行き、国家試験合格後採用となり、病院薬剤師人生が始まりました。驚いたことにいただいた採用辞令には厚生省技官と書かれていました。知らぬ間に国家公務員人生もスタートを切っていました。このおかげで大学の同級生だった彼女の実家に結婚の許可を取りに伺った時、商売をされている怖い顔をしたお父さんが公務員は堅い商売だからいいだろうと言って割と簡単にOKしてくれたことを覚えています。久保田教授のおかげだと今でも感謝しています。

今回、同窓会誌「ふなかわら」に文章を書かせていただくことになり、いろいろと考えましたが、私の病院薬剤師人生もゴール直前となり、いい機会なのでこの間を振り返ることにしました。

就職後は数多くの先輩や同輩にお世話になりましたが、その中でも石井会長を筆頭に理科大の皆様を受けた恩は決して忘れることができません。私が東二に就職した時には理科大の先輩である榎本隆一先生が勤務していました。当時は調剤業務を如何に早く正確に遂行するかが一番の目標でした。現在は機械化されている薬袋への記載や錠剤やカプセルをパイルパッカーに撒く作業などを思い出します。私は字が下手くそだったため、書記を担当すると調剤室の向こうの方で調剤監査をしている怖〜い薬剤科長に「今日の書記は誰だ。名前が読めないぞ。」と雷を落とされたことも幾度となくありました。残念ながら未だに字の方は上達していません。これは私が左利きなのに右で鉛筆を持ちなさいと指導した小学校1年生当時の担任のせいだと今でも恨んでいます。

当時国立病院には理科大出身の薬剤師はほとんどいませんでした。そのためか榎本先生には可愛がってもらいましたが、勉強の大切さをとことん教えられました。残念ながら根っからの怠け者の私は目の前の業務には打ち込みますが、プラスアルファができませんでした。今でも後悔しています。

当時の東二は先進的な取り組みをしており、病棟ごとに担当薬剤師を配置していました。業務は病棟定数などの医薬品の管理が主でしたが、病棟へ行き医師や看護師と顔見知りになり、今で言うチーム医療を行うことが本来の目的でした。

実は東二時代に薬剤師として今でも思い出に残っている

感慨深い経験をしました。私の担当は小児病棟だったので、毎年病棟でクリスマス会が行われていました。そこで会的主役であるサンタクロースを4年間演じました。私にお鉢が回ってきた理由は子ども達に面が割れていないということでした。医師だと誰だかすぐに分かってしまい、小学校高学年くらいのいたずらっ子が悪乗りして「あっ〇〇先生だ!!」と囃し立てたこともあったようです。当時の薬剤師は直接患者のベッドサイドには行っていなかったため、誰だか分からないという理由は今考えると少し悲しいですね。

会の一番の盛り上がりはプレゼントを配る時間です。一人ずつ名前を呼んで渡すのですが、中学生くらいの子は面倒臭そうに前へ出てきます。顔はというと恥ずかしそうだけといふ笑顔をしています。クリスマス会を行っているホールに出て来られないお子さん達もいます。その方たちには病室を回りプレゼントを渡すのですが、意識のないお子さんのベッドサイドではどう接したらよいか迷いました。結局サンタクロースの役に徹して明るく接することが一番だと分かりました。ご両親が笑顔でお子さんの名前を呼び喜んでくれた姿は一生忘れられません。この時の皆さんの笑顔が私の病院薬剤師人生のモチベーションになっていたのかもしれません。

国立病院時代の最後が国立成育医療研究センターという小児と周産期の病院でした。ここはいわゆるナショナルセンターと言って国立高度専門医療研究センターでしたので、いろいろな経験をさせてもらいました。

一番に思いつくのは厚生労働省政務次官室にて政務次官と面会したことです。当時は民主党政権でしたが、とにかく緊張したことを覚えています。父親の故郷が選挙区だったので、もう少し大きな顔をしてもらいたかったかもしれません。緊張と言え、厚生労働省の小児薬物療法検討会議に出席した時も緊張しました。意見を言う段になると口が渇き、声が掠れていたように思います。緊張体質は年齢を重ねても治りませんでした。

次に思い出すのが、妊婦授乳婦領域と小児領域の薬物療法に関する薬剤師教育です。このような立場に立つとは思いませんでしたが、妊婦授乳婦領域は日本病院薬剤師会の専門薬剤師部門の研修委員長をやらせていただき、小児領域は認定制度を立ち上げに参加しました。

講師を依頼した各診療科の医師の方々は薬剤師のまじめな点を必ず褒めてくれます。この気持ちを持ち続けていれば、薬剤師の未来は明るいと思います。薬剤師の地位が劇的に向上することを願っております。

私もそろそろフェイドアウトの方法を考える時期に来たようです。笑顔でゴール板を通過できそうな気がします。

学科主任挨拶



薬学科主任 花輪 剛久

平成26年10月より、薬学科主任を拝命しております、花輪剛久と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。学科主任の任期は2年間ですので、皆様が本稿を御覧になるころは次期執行部が決まっている頃かもしれません。そこで、OB・OGの方々にとって関心事と思われる薬学科の現状について2点、お話しさせていただきたいと思います。

一つ目の関心事は「薬学科の教育はどの様に行われているのか」という事なのではないでしょうか？

本学薬学科は昨年（平成27年）11月9、10日の2日間に渡り、一般社団法人薬学教育評価機構（機構）による、「6年制薬学教育プログラムの評価（いわゆる第三者評価）」を受審しました。これは各大学が自らの掲げる教育研究上の目的を達成するために実施している教育プログラムを、『どのように自己点検し、問題点を見出し、その改善のための取り組みを実施し、成果を上げているか』を、「評価基準」に則して評価するものです。本学では、薬学科の教育に関わるすべての科目について、教養科目、学科の別なく、多くの教員が準備に関わってきました。本学の6年制薬学教育がどのように行われ、それが如何に評価されたかについては本学HPでも機構のHPでも閲覧することが可能です。結果として、「本学の6年制薬学教育プログラムは、薬学教育評価機構が定める『薬学教育評価基準』に適合していると認定する」と評価されました。一方、改善すべき点として指摘された事項もありますが、これまでの教育を見直し、これからの教育にどのように活かすべきかを教員全員で考え直す良い機会と捉えています。本評価はいずれの施設も7年ごとに行わ

れます。本学の次の受審は平成34年度ですが、本学では次回に向けた取り組みをすでに開始しています。

もう一つの関心事として考えられるのは、やはり「現在の本学薬学科がどのような薬剤師を輩出しようとしているのか？」ということなのではないでしょうか？国公立大学の多くがそうであるように、本学薬学部も卒業生の半数が企業・官公庁等の「薬剤師の免許を必ずしも必要としない職域」に職を得ています。しかし、平成18年度より始まった6年制の薬学教育はより高度な知識と技能を身につけた薬剤師を輩出することです。本学も「ヒューマニティと研究心を有し、薬を扱う様々な領域においてリーダーとして活躍できる薬剤師の輩出」を目指しています。それを実現するために我々も「薬剤師は資格であって職業ではない」こと、また、「医師・歯科医師と同様、6年制の薬学教育を修めたものが薬剤免許を取得することは、職域を問わず、これからの6年制薬学部出身者に求められる当然のアイデンティティである」ことを学生に意識付けしつつ教育に当たっております。しかし、国家試験の合格率は国立大学に水をあけられるケースが出てきています。これまでの調査で、1、2年生などの低学年時の成績と卒業時の成績、国家試験の可否には相関が認められることから、入学初期から薬に対する関心を持たせることを課題として試行錯誤し、国家試験合格率向上を目指しております。

ここに述べさせていただいた様に、薬学科教員は丸となって教育・研究・学務に従事しております。OB・OGの方々におかれましては本学薬学科を温かく見守っていただくと同時に、より社会貢献できる卒業生を輩出できる様、ご指導、御意見等を賜ることができれば幸いです。

学科主任挨拶



薬学部 生命創薬科学科 学科主任 青木 伸

平成26年10月から、生命創薬科学科の学科主任を仰せつかっております青木と申します。学部長に就任された深井文雄先生や薬学科主任の花輪先生、主任会議のメンバーの方々、薬学部の先生方、大学の関係者の先生方に

助けていただき、何とか今日に至っています。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

ご存知のように、2006（平成18）年の薬学教育制度に伴って、本学部では6年制の薬学科と4年制の生命創薬

科学科が併設されました。発足当初は、4年制学科の受験生の減少が心配されましたが、本学部の歴史と伝統、皆様のお力添えのおかげで、10年経過した今年も、定員数を上回る新入生諸君を迎えることができ、大変うれしく思っています。

本学薬学部は、両学科の人数比では国公立大学型である一方、学生数および体制としては私立大学型に近いという両方の性格をもっています。平成28年3月に本学大学院薬学研究科薬科学専攻（生命創薬科学科の上の大学院）修士課程を修了した学生数は93名で、全国の私立大学薬学部の大学院修士課程を修了した学生数279名の33%にあたります。また国公立を含めた薬系大学全体の修士課程修了生1005名の9.3%に相当します。十数年後には、日本中の創薬関連企業や組織が、本学薬学部出身者で埋め尽くされるかも知れません。我々は、そのような本学のアドバンテージを生かしつつ、卒業生が、自分と周りの人の力を最大限に引き出しながら日本や世界のサイエンスと健康増進に貢献できるよう、日夜尽力しているつもりです。どのような状況の中でも質の高い研究成果を挙げるとともに、ますます力量のある学生を輩出することが、我々の重大な責務であると考えています。

同時に、本学ならではの課題もありますので、定期的に学科の教員会議を行い、様々なことを議論、決定、実施してきました。この約1年半の主な動きは、以下のようなものがあります。

- 1) 新任教員の人事（平成27年4月に原田陽介講師（免疫創薬学）、平成28年4月から横山英志准教授（生物物理化学）、4名の助教を採用）
- 2) 生命創薬科学科独自の講義の充実

キャリア学習1（1年生必修）（一年生の段階で研究室を見学するなどして、自分の将来像を考えることが目的）とキャリア学習2（3年生選択）（著名な研究者や、本学OBの講演などを通して自分のキャリアを考えることが目的）の充実。授業・実習におけるe-learningシステムの導入など。

- 3) 根岸英一先生（2010年ノーベル化学賞受賞）講演会「夢を持ち続けよう、世界へとびだそう」を開催（平成27（2015）年9月17日（土）薬学部1311教室）
- 4) 本学薬学研究科大学院生と薬学部生が、国際シンポジウム「4th International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences (iPoPS 2016) at Tokyo University of Science」を主催。学生諸君がマレーシア、インド、タイ、サウジアラビアなどから約20名の研究者を招聘し（総参加者数は約150名）、さらに自分たちも口頭およびポスター発表を行って、見事に学会を成功させました（平成28（2016）年2月27（土）～28日（日）野田セミナーハウス）。

今後の大きな課題の一つは、平成30年度以降の生命創薬科学科入学者が、薬剤師国家試験受験資格を得られないことであり、その対応が求められます。さらに生命創薬科学科の業績向上、競争的外部資金の獲得、教育プログラム（例えば留学プログラム）の充実なども重要です。また、本学は研究室体制であるため、研究室主宰者のご退官や転出に伴って研究室が新しくなると、OBとのつながりが途絶えてしまうという潜在的な課題を抱えています。同窓会のつながりは、何にもまして心強いものですので、皆様には様々な局面でお世話になるかと存じます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年度東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日 時：平成28年7月23日（土）14：00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会

15：00～17：00 特別講演会（財）日本薬剤師研修センター認定（1単位）

演題「放射線によるDNA損傷と修復機構 ～最近の話題から～」

掘越 信夫 先生（21期）

Department of Radiation Oncology

Houston Methodist Research Institute

Weill Cornell Medical College

演題「大学をめぐる動き：入口（入試）と出口（就職）」

中島 範行 先生（21期）

公立大学法人 富山県立大学 工学部・生物工学科（生物工学研究センター兼務）

生物有機化学講座 教授 キャリアセンター所長

17：30～19：30 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円

第32回 薬学講座 開催要項

期 日	平成28年10月15日（土）
時 間	10：30～17：00（10：00 受付開始）
定 員	240名
場 所	東京理科大学神楽坂キャンパス1号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む） ※昼食代は含まれておりません。
主 催	東京理科大学薬学部
共 催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 公益財団法人日本薬剤師研修センター 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

● 開催の趣旨 ●

薬学講座は、薬剤師のスキルアップのために毎年、最新の医学・薬学領域の情報を始め様々なテーマでの講義を提供しています。今回も基礎研究から、臨床研究、予防医学とバラエティに富んだ内容で4人の先生方にご講演をお願いしました。まず、江角先生にはがん治療の最前線、また、久永先生には石綿の発がん性、菅野先生には環境化学物質の健康影響について、さらに田中先生には中枢神経系の発達に関する基礎研究の成果をご講演頂きます。

受講生の皆さまの業務の一助になることを願いつつ、また文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業にも役立つような薬学講座を企画しましたので、奮ってご参加して頂けますよう、お願い申し上げます。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付期間は平成28年8月1日（月）から平成28年10月5日（水）までとさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

東京理科大学生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

<http://www.tus.ac.jp/manabi/>

受付結果の送付

お申し込み受理後、受付結果（受講証）と振込用紙を郵送いたします。

受講料の納入

振込用紙を使用し、コンビニエンスストアかゆうちょ銀行で受講料を納入してください。

講座の受講

受領印の押された振込用紙の受領証を、受講証の指定箇所に貼付してください。

講座当日には、受講証及び筆記用具をお持ちください。

第32回 薬学講座プログラム

- 10:30～10:35 開会の辞 実行委員長 市原 学
- 10:35～10:40 学部長挨拶 東京理科大学 薬学部長
- 10:40～11:50
「華々しきがん医療の進歩と少しの不安」
東京理科大学 生命医科学研究所 所長 江角 浩安
- ＜11:50～12:50 昼食・休憩＞
- 12:50～14:00
「石綿がんからナノファイバー、そして薬へ」
愛知学泉大学 家政学部 臨床医学 教授 久永 直見
- ＜14:00～14:15 休憩＞
- 14:15～15:25
「化学物質による発がんの機構の毒性的な考察」
労働者健康安全機構 日本バイオアッセイ研究センター 所長 菅野 純
- ＜15:25～15:40 休憩＞
- 15:40～16:50
「神経発達障害の分子メカニズム解明へ」
東京大学 大学院医学系研究科 准教授 田中 輝幸
- 16:50 閉会の辞 実行委員長 市原 学

※今回の薬学講座は公益財団法人
日本薬剤師研修センター研修認
定薬剤師制度の認定対象研修会
であり、参加される場合は、3
単位の修得となります。
ご希望の方は、当日会場にて受
講シールをお受取りください。
なお、途中入退場者にはお渡し
出来ません。実質4時間30分を
受講した方に受講シールをお渡
しします。



お申し込み先



東京理科大学生涯学習センター

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048

E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp

URL <http://www.tus.ac.jp/manabi/>

研究室紹介 岡（薬理学）研究室

薬理学研究室 教授 岡 淳一郎



はじめに

薬学部同窓会の皆様には、お元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。私は、1975年に東京大学薬学部、1980年に同大学院博士課程を修了し、東京大学助手及び名城大学助教授を経て2000年10月に本学部薬理学研究室に赴任致しました。皆様御存じのように、薬理学研究室は1960年薬学部設置と共に加来天民教授により薬物学教室として開設され、1970年に久保田和彦教授が引き継ぎ、1981年に薬理学教室に改称されました。さらに1996年小野秀樹教授が着任して薬理学研究室となりました。私が引き継いだ後、野田キャンパスへの移転、薬学部6年制開始などを経て現在に至っています。

これまで代々の助教（岩井孝志、濱田幸恵、恒岡弥生）、大学院生、卒研生とともに、脳の病気に関与する脳内機序の解明とその治療戦略の構築をテーマにして、認知症、うつ病、糖尿病合併症としての学習障害やうつ症状に関する脳内機序の解明と神経ペプチドGLP-1やGLP-2等を用いた治療戦略の確立、中枢性血圧調節機構の解明、和漢薬（釣藤散）や天然物由来化合物（neoechinulin A）の脳機能改善作用、脳内微小循環の病態時の変化等の研究を、行動薬理学・電気生理学・免疫組織化学・生化学等の手法を用いて行ってきました。その一部を以下に御紹介致します。

1 糖尿病に起因する認知情動行動障害の病態解明と治療戦略の構築

アルツハイマー病を含む認知症は、超高齢化社会で取り組まなければならない大きな課題です。その重大なリスクファクターとして糖尿病が上げられます。血糖値をコントロールしていても、中枢神経系の合併症が現れると言われています。私たちは、1型と2型の糖尿病モデル動物を各々作製して学習機能障害とその治療薬の探索を行っています。1型では、従来から学習障害が生じて海馬シナプス可塑性のうち長期増強（LTP）が障害されることが報告されています。一方、私たちが作製した幼若期発症モデルラットでは、シナプス長期抑圧（LTD）が障害されて学習機能が低下していました。更に比較してみると、発症時期の違いで神経機能を担う分子の発現や働き方が異なることが分かりました。1型糖尿病では幼少期発症患者がふえているた

め、認知障害の治療では発症時期に応じた対応が必要であることを提唱しています。

2型糖尿病は、その進行過程にしたがって脳機能が変化していきます。私たちは、マウスを処置後2、4、及び7ヶ月目に学習機能やシナプス可塑性を調べています。2ヶ月では神経伝達の促進がみられ、肥満となる4ヶ月ではむしろLTPが亢進していますが、インスリン抵抗性が現れる7ヶ月になるとLTP障害と学習障害がみられるようになります。このような神経機能の時間を追った変化の原因は何なのか、分子レベルでの変化も含めて検討中です。一方、培養神経細胞に高グルコースを処置すると、いくつかの分子の発現に変化が生じます。現在はその機能的役割と、糖尿病モデルでの血液脳関門の変化についても調べています。

2 ストレスに起因する認知情動行動障害の病態解明と治療戦略の構築

認知症とともに現代社会で問題となるのはうつ病や神経症などの情動障害です。ストレスは、視床下部一下垂体一副腎皮質（HPA）系を賦活し、副腎皮質ホルモンが全身でストレス反応を引き起こす一方、海馬を介して視床下部に負のフィードバックをかけてストレス反応を収束させると考えられています。しかし、強いストレスが慢性的にかかるような状態では、このフィードバックがかかり難くなってストレス脆弱性となります（図1）。うつ病はこのコントロールがうまくできない精神状態と考えられます。私たちは、HPA系の過活動により既存の

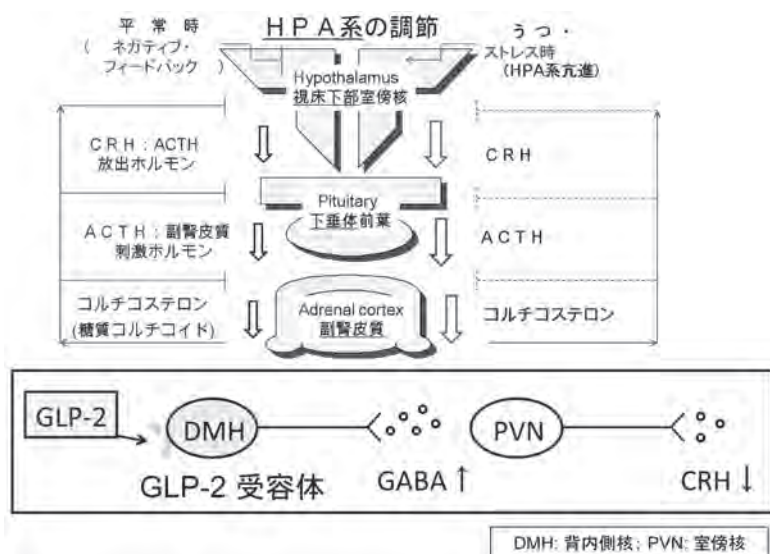


図1 HPA系の調節とGLP-2の作用

抗うつ薬が効き難くなった治療抵抗性うつ病モデル動物を作製して、GLP-2、釣藤散、neoechinulin Aなどの抗うつ作用とその作用メカニズムを調べています。

3 経鼻投与用中枢作用性ペプチド誘導体を用いたトランスレーショナルリサーチ

これまでの研究で、生体内にも存在する数種のペプチドが精神神経疾患に対する治療効果を示すことを明らかにしてきました。すなわち、GLP-1やneuromedin Uによる認知障害改善作用、GLP-2による治療抵抗性うつ病の改善作用です。ペプチドは、適切に使用すれば安全性の高い医薬品となることが期待できますが、末梢投与をしても脳との間には血液脳関門とよばれる障壁があり、またペプチドは酵素により末梢組織中で速やかに分解されてしまうため、これまでの私たちの実験では、動物の脳内側脳室に直接薬液を投与する方法を用いました。しかし、この投与法は侵襲性が高いため、今後ヒトに使える治療薬にするためには、脳直接ではなく末梢投与により中枢移行させる方法を考案する必要があります。この課題を克服するため、2014年から本学DDS製剤設計学の山下親正教授、堀口道子助教と共同で中枢作用性ペプチドを経鼻投与により脳内移行させる誘導体化法を開発しました。現在、本学や科学技術振興機構（JST）の補助を得て国内外の特許を出願しています。誘導体化したGLP-2は、経鼻投与により効率良く脳内に移行し（図2）、側脳室内投与と同等の抗うつ作用を示しました。今後は、製薬企業等との

共同研究により、臨床試験を始めるためのトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を行い、経鼻投与による新規抗うつ薬や認知症治療薬の開発を進めて行きたいと考えています。

おわりに

長い歴史と優れた卒業生を輩出してきた本研究室を引き継いでから15年半が過ぎ、定年まで残り2年となりました。昨年、第133回日本薬理学会関東部会を柏の葉カンファレンスセンターで開催致しました。卒業生の皆様にもお力添え戴き、感謝しております。30数年前に久保田教授が神楽坂校舎で開催された関東部会に参加したことを懐かしく思い出します。この間に、科学・技術は大きく進展し社会も随分変わりましたが、人と人の繋がりが大切であることに変わりはありません。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

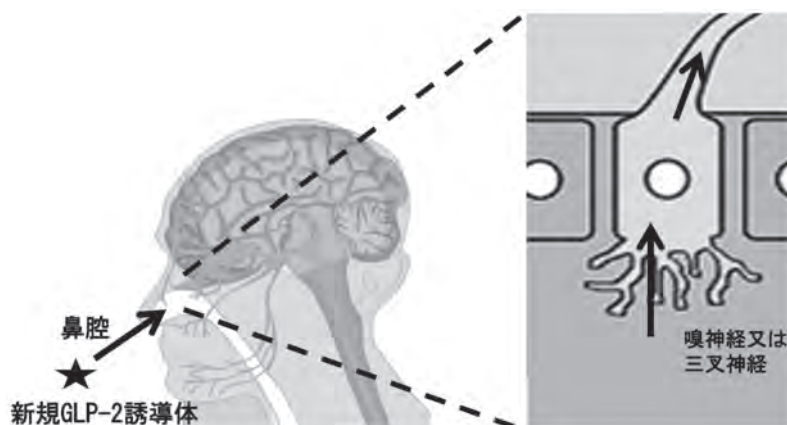


図2 経鼻投与の想像図

トピック

恩師からのたより

原 博



皆様 こんにちは。お元気で暮らしのことと存じます。「恩師からのたより」というタイトルで自分を書くのはなんとなく変だと思いましたが、せっかくお願いされたのですから、定年後のことを中心に書いてみました。41年もの長きにわたり理科大薬学部にお世話になり、本当に光栄でした。修士課程を途中で辞めて勤めましたので、全て理科大で育てられたと感謝しております。定年の数年前に学部のカリキュラム委員長を仰せつかった時に6年制への年限延長問題とリンクする薬学教育モデル・コアカリキュラムの作成に直接関わりました。結果的に、その後、6年制薬学部に向けて多くのミッショ

ン全てに関わらざるをえなくなったのです。

ちょうど6年制薬学教育のスタートにあたる10年前に定年を迎えるや、元薬剤学教室の林正弘先生が当時東京薬科大学にお帰りになって学部長をされておられ、私に新しく始まる「薬学入門教育」を立ち上げてほしいと常勤の客員教授として呼んでくださいました。

一方、6年制薬学教育の目玉である長期参加型実習の指導薬剤師養成に尽力しておられた東京都薬剤師会の上村直樹先生（現：東京理科大学薬学部教授）が私を理事にしてくださいました。東京都の実務実習指導薬剤師の養成が都薬での主な業務でしたが、日本薬学会の方でも

全国展開で養成活動をしていました。全国あちこちで、理科大の卒業生の方と会うことが出来てたびたび嬉しい思いをしました。

このように研究や学生の指導はなくなりましたが、多くの仕事に休日無しで没頭せざるをえず、のんびりした定年生活からかけ離れた毎日を送ってきました。

東京薬科大学の方は4年後に非常勤となりましたので、講義や演習にだけ出かけることとなり少し暇ができたのですが、すぐに現在勤めております薬学共用試験センターから声がかかり、顧問として就任しました。上にも書きましたように、6年制薬学教育における参加型実務実習は薬剤師免許を持たない実習生が調剤や患者接遇などをするわけですから、実習に出る前に一定の知識と技能・態度を身につけていることが担保されなくてはならないのです。そのために全国の薬系大学・薬学部が共に用いる試験が薬学共用試験なのです。興味のある方はホームページをご覧ください。

また、この間、6年制薬学教育を目的とした教科書をたくさん編集・執筆してきました。そのおかげで執筆について面白いことがわかりました。自分がこれだと思う本を書くとその分野でベストセラー（例：創薬化学、薬学生・薬剤師のための英会話ハンドブックなど）になります。ところが、出版社から頼まれて書く本はなかなか売れません。出版社より現場の教員の方が社会のニーズがよくわかるからだと思います。また時代の流れもあります。編集委員長として物凄い労力を費やしたにもかかわらず、薬学用語辞典（日本薬学会）は個人での購入が進みません。インターネット時代に辞典を引くことがなくなってきたからでしょう。

東京都薬剤師会の方は、最後の3年間は副会長として勤め、昨年（2015年）、ちょうど10年で引退しました。その間の一番の思い出は、東日本大震災の支援薬剤師として東北に出かけたことです。震災が起こるや、都薬からのボランティアにすぐ手を挙げましたが、実務経験もない年寄りは邪魔になるだけだと断られ続けました。しかし、5月に入り、被災地域の仮設住宅や避難所で展開するOTC医薬品の提供なら私でもできるだろうと加えていただくこととなりました。東京都の医療関係のスタッフ（医師、薬剤師、看護師、など）は全員が同じバスで一関の宿舎まで一緒に行くのですが、都庁前の集合場所に行きましたら、2人の理科大卒業生【田村祐輔氏（薬治）と荒木敬子氏（旧姓 今村：物化）】から声をかけられました。一緒に行く薬剤師6名の内、私を入れると3人が理科大関係者なのです。また、当地に着くと私たちに引き継いで帰京するメンバーの中にも卒業生の高井裕美子氏（旧姓 山口：衛生）がおられました。日頃、理科大卒業生は知的で冷静な人が多いと思っておりまして、こんなに熱い人達と現場で出会い感動しました。一関から二手に分かれて陸前高田と気仙沼に毎日往復しました。行動を共にした6名は戦友のような関係で今年に2回ぐらい会います。



その後、2度ほど支援に出かけましたが、後の方は北里大学のボランティアの学生グループと一緒にした。当地の薬剤師も交え、災害時の薬剤師の仕事についてワークショップをしました。若い人達と交流するとたくさんのエネルギーをもらえますし、次世代に託する勇気が湧いてきます。



ごぞんじのように被災地の復興は思うようには進まず。これからも何かの形で支援することを忘れないようにしていくつもりです。戦前に生まれた私としては戦争の悲惨さと戦後の貧しさが忘れられず、被災地への思いを突き動かすのでしょうか。

理科大では、3つの研究室（薬化学、臨床薬学、分子薬学）にいました。薬化学教室では梅沢先生、榊原先生、星野先生にお世話になりました。梅沢先生は現役中に亡くなられましたが、榊原、星野両先生は今もお元気で、毎年1回位以上お会いしています。



榊原先生とは1年間だけでしたが、教育の手法等を教えていただきました。今も毎年、先生と澤木先生も一緒にその頃の卒業生の皆さんと旅行に行きます。

星野先生からは研究のことで多くの指導を受け、学位も取ることができました。毎年、神楽坂で多くの卒業生と一緒に飲み会を開きます。2012年には福島で震災支援のシンポジウムを兼ねて先生の古希のお祝いをしました。また、2015年には先生の傘寿のお祝い会には多くの卒業生が集まりました。



臨床薬学時代は薬理学（宇留野、砂金、松岡3先生）、微生物学（石井先生）、合成化学（西谷先生）を融合したゼミナールを実施し、これが創薬化学を執筆する原動力になりました。皆様とは、後の臨床系の先生方も一緒に今も仲良くさせていただいております。



分子薬学時代は上にも書きましたように外の会議に出ることが多く、学生の皆様の研究の指導が不十分だったかと思います。それでもしっかり学習をして巣立って行かれました。最後の卒研生さんも今やお子さんをもつ世代となり、時々お会いするとしっかりと時代を背負う顔になっておられます。



スポーツが大好きなこともあって、スポーツファーマシスト制度が発するや東京での認定第1号となりました。今も、日本薬剤師会石井甲一先生【(現 副会長)：植化】のもとでドーピング防止対策委員会のメンバーです。また、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）の学術委員等をつとめながら、東京オリンピック・パラリンピックをドーピングのないクリーンな大会にすべく2020年に向けて活動中です。

その私もこの3月で75歳になりました。現役時代は学生に混じってバスケット等をしていましたが、定年になってからはなにもスポーツはしていません。都心を限無く歩くことが身体を動かす唯一の運動です。上村先生からはハラジーと呼ばれていますが、この頃は頭の回転が遅くなったことを加え、自らをアルクハイマー・ハラジーと称しております。昔は実習時に班毎に写真を撮って皆さんの顔と名前を一生懸命覚えたものですが、もう覚えるより忘れる方が早くなりました。お会いした時に失礼なことがあってはと思い、この文中でエクスキューズをしておきます。よろしくお願いします。

文中にお名前を記載しませんが、遠藤次郎・輝子両先生と海保房夫先生にも兄弟のようにつきあわせていただきました。厚く御礼を申し上げます。

終わりにあたり、理科大薬学部益々の発展と皆様のご多幸・健康を心からお祈り申し上げます。

近況報告

(株) 桃谷順天館 代表取締役 桃谷 誠一郎 (22 期)



私は、22期卒業なので卒業してかれこれ30年以上経過したことになる。

今日振り返ってみるとこの30年実に様々な変化がありました。

母校理科大薬学部に関しても

①神楽坂から野田への校舎移転。

どうしても距離と時間の関係で卒業後大学に顔を出すことがなくなり、そこは大変残念に感じています。

②薬剤師国家資格取得要件を得るために、6年間も学ばねばならなくなったこと。(4年間では確かに実社会での実践面での習得に不安はあったが)

さらにその上に、CBT (Computer-Based Testing) やらOSCE (客観的臨床能力試験) などのテストをクリアしないと卒業できないなど、昔と比べ大変過酷な学習環境にあるに違いないと思います。最近の学生は大変だ。

③大学の英語名表記がScience Univ of Tokyo→Tokyo Univ of Scienceとなっていること。

個人的にはどうでもよいことなのですが、なぜ変更されたのか気にはなります。どなたかご存じでしょうか？

④先日卒業後数十年ぶりにお会いした薬学部の恩師が、学生当時と見かけも性格もお変わりなく、「お互い変わりませんねえ」と変に安心したのですが、自宅で卒業アルバムの写真を見るとなぜかどちらも明らかにもっと若い。

とても不思議な体験でした。

⑤当時一緒に学んだ友人が偉くなったこと。

学生時代物理化学の実験で実験そのものより、実験に欠かせない沸騰石作りに時間をかけ、とりとめのない話でお互い盛り上がっていた友人が知らぬ間に理科大の教授になっていたことには大変驚きました。

実は、この友人のご指名により私が今回近況報告をさせていただくことになったのですが、他にも立派な卒業生の方々がいらっしゃいます中、誠に僭越ですがよろしく願います。

前置きが長くなりましたが、私は薬学部製薬学科を卒業後薬剤師の資格を得てその後2年間ビジネススクールに進学しMBAを取得し、某製薬メーカーにいわゆるプロパーとして勤務いたしました。その後、化粧品製造販売会社に転職し、現在その会社の経営に携わっております。

薬学部を卒業されますと製薬会社や病院や官庁やド

ラッグストアに就職される方がほとんどだと思いますが、化粧品会社に就職される方もいらっしゃいます。研究職が殆どだと思いますが、私は営業・企画系で仕事をしてきました。

その化粧品業界は、2008年のリーマンショック以降、年間総出荷金額の大幅ダウンと一個一個の製品の販売価格の低下という、大変厳しい状況が続きましたが、現在は、訪日外国人客の“爆買い”によるインバウンド需要で、活気を取り戻しています。彼らが本国にもどり日本の化粧品の品質の高さや使い心地に満足されればさらに海外においてもメイドインジャパンの信頼がさらに高まり我が国経済の発展にも寄与できるものと思います。

実際、私どもの会社でも自社ブランドのほかOEM/ODMビジネスも活況を呈しており、まさに中国やアジアはもとよりヨーロッパやアメリカからも化粧品の製造依頼を数多く頂いております。

しかしながら、化粧品は各国おののレギュレーションがあり、その要件を満たさなければその国で販売できません。また、イスラム社会には独特のハラール規制もあり一筋縄でいかないのもまた現実です。

ところで、私は自分たちの会社を化粧品会社と紹介させていただきましたが、最近では化粧品、エステティック、健康機能性食品、美容医療などのビジネスの境界が急速に曖昧になりつつあると感じています。

人々は、健康で美しく年を重ねていくことを望んでいます。そしてトレンドはアンチエイジングではなく、スマートエイジングなのです。つまり賢く年を重ねてゆきましょう！ってことですね。

こうした世の中の変化に対応してゆくには、良質な化粧水や美容液さらにはメイクアップ商品という従来の化粧品だけでは満足していただけなくなりつつあるのです。

一時的に化粧で化けるのではなく、健康な素肌を育成してゆくためにはどのような食生活が良いのか？。光老化を防ぐためどのように日焼け止めを使用すべきか？。ストレスは美肌の敵ですが、それをメイクで覆い隠すのではなく心を癒すためのサービスとしてどのようなエステティックの施術が効果的なのか？

既に出てしまったシミやしわをすぐにでも何とかしたいとおっしゃるお客様もいて、その解決となるとIPL照射やボトックス注射などもはや医療の世界になってき

ます。

つまり私達は、美しく年を重ねたいと願う女性や男性の願いを叶える製品やサービスを提供できる事業を目指していかなければならないと考えているのです。

最近ではコンピュータの計算速度が飛躍的に向上しDNA解析のスピードも上がり多くの大学や研究機関で大変ユニークな肌に関するあるいは老化に関する研究成果があがっています。そうした研究室の先生方は本当に生き生きとされ自分たちの研究成果を世に問いたいと思っておられる方が大勢いらっしゃいます。

私達はそうした先生方の情熱を肌で感じますし、そうした先生方との共同研究で多くのお客様に喜んでいただける製品やサービスを生み出してゆきたいと思っています。

人の美と健康に関わるビジネスは今後さらに大きく発展していく可能性があり、世界に先駆けて高齢化社会を迎えている日本と日本独自のおもてなしの文化をもってすれば、今後日本はこの分野の製品やサービスの輸出大国になれると思います。

例えば、肌の色が濃い国の人たちも美白への関心は高く、90歳を超える年配の方々も、男女問わず、しわやシミのない素顔を求めているからなんです。こうした夢を叶える仕事ができる私は幸せだと感じています。

しかしこうしたビジネスを実現するには、共に働いてくれる社員や共同研究して下さる大学などの研究者様など優秀な人財が不可欠です。

「人は城、人は石垣、人は堀」

これは戦国時代の武将武田信玄公の有名な言葉です。

会社であれ研究機関であれ、またいつの時代でも、人財力は最も大切な経営資源であり優秀な人材の育成は永遠の課題です。

そして、私自身経営者として今、もっともっと努力をしてゆかねばならないと感じていること、それは、「徳」と「力」を身につけることです。

知は力なりで、知識や経験は学習と実践によってある程度身につきます。

しかし、「徳」となるとよほどの努力が必要だと感じています。

最近私がある方に教えていただいたことですが、以下の四つの心を常に会得し実践して行くことが大切だそうです。

惻隱の心：慈愛の心、相手のことを思える心、仁（最高の徳）のはじまり

羞惡の心：間違いを恥じて正してゆくこと 義のはじまり

是非の心：是々非々 良いことと悪いことの判断をつける 智のはじまり

辞讓の心：辞して相手をたてる心 礼のはじまり

私もあと数年で、還暦を迎えるわけですが、遅ればせながらこれらの修行を日々実践する事を決意するとともに、充実したスマートエイジングにも自ら取り組んでゆきたいと考えております。



退任の挨拶

浅田 善久（生薬学研究室）



私が東京理科大学薬学部に入學した時は、単位制ではなく、学年制という時代でした。1科目でも単位を落とすと留年で、しかも全ての科目を翌年再履修しなければなりません。従って授業に対する姿勢が今とは違っていた気がします。常に教室の最前列は、出来るだけ良い席で授業を受けようという学生で埋まっており、良い席を取るのが大変だったことを記憶しています。

大学での勉強は「自ら学び取る力を育てる」ことが大切だと考えています。研究の場面では、まだ経験しない出来事が多く、考える機会を多く与えてくれます。全てが上手くいくわけではありませんので、失敗から学ぶことが多くあります。失敗から学び取るには、前もってある程度知識が無ければ学び取ることは出来ません。複数の機械を使う場合、「使い易いように組み立てあげる」

のも失敗をしないためには重要なことだと考えています。失敗しないように「なんらかの工夫」をすることも非常に勉強になります。勉強だけではなく例えば研究室の大掃除などであっても、どうしたら効率的に、綺麗にすることが出来るかを考えながら行えば、学ぶことはどこにでも転がっていると思います。常にどんな事からも学ぶ姿勢を忘れないことが大切です。

最後になりますが、理科大学薬学部での私の教員生活は7年間ではありましたが色々な事を経験させていただき、定年後の糧になると考えています。無事理科大学での教員生活を終えることが出来たのも、教員、事務職員、学生諸君のご協力の御陰であり、深く感謝すると共に、皆様のご多幸と今後の益々の御発展をお祈り申し上げます。

廣田 孝司（生物薬剤学研究室）



2008年秋、製薬企業に28年勤務後、縁あって本学薬学部へ赴任し、薬物動態学等を教えることになりました。会社では開発部署で臨床治験に関わったほか、研究所にもおり非臨床の薬物動態研究に長く携わってきたものの、当初は学生相手に教えることなどできるか本当に不安でした。しかし、学部の先生方のご指導、ご助言、事務の方々のサポート、そして、なにより優秀な学生諸君のお蔭で、どうにか薬学部教員としての職務を無事終えることができました。

研究室開設当初は、実験器具も何もなく、いったい何ができるのか、何をしなければいけないのか、ガランとした研究室で、途方に暮れていました。しかし、その時も助教や学生と一緒に考えてくれ、共に歩き出し、どうにか軌道に乗せることができました。この8年間に50人近くの学生が研究室で毎日一生懸命に実験し、企業ではできないユニークな研究をいくつかまとめることができました。そうした中、企業にいた人間として彼らに対し、研究が「不思議を解明する楽しさ」だけに止まらず、それを「社会で役立てることの重要性」を

しっかり伝えられたのではないかと自負しています。

赴任以後約8年間、野田のキャンパスで過ごしました。春は桜と新緑が始まり、新緑から青葉が段々濃くなると、前期の定期試験。夏休み開始と共に日頃のざわめきは遠のき、キャンパスが蟬しぐれに包まれます。秋風と共に、日に焼けた学生が戻り、じきに大学祭。薬学科6年生の卒研発表会の頃は、いちょうが黄色く色づきます。年明ければ、すぐに後期の定期試験。年によっては雪で学生が遅れないか心配になりました。立春を過ぎれば、修論、博論発表会、また生命創薬科学科の卒研発表会。卒業式、そして、また桜。この年齢になってこんなにも豊かな自然と若い学生の息吹の中で過ごすことができ、本当に幸せでした。

最後になりますが、東京理科大学薬学部の生活の中で、優れた学生に出会え、多くの仲間と教育・研究に携わることができたこと、本当に感謝に堪えません。今後も東京理科大学の益々の発展をお祈り致します。

新任の挨拶

羽田 紀康（生薬学研究室）



平成28年4月より浅田先生の後任として、生薬学講座に着任いたしました羽田と申します。歴史と伝統ある東京理科大学薬学部に参加できたことは本当に身の引き締まる思いです。

私は名城大学薬学部を卒業後、名古屋市立大学大学院薬学研究科博士後期課程修了し、カナダアルバータ大学、国立がんセンター研究所、共立薬科大学、慶應義塾大学薬学部を経て本学に参りました。

薬学教育に従事して19年、教育及び研究のポリシーとして、「人間は自然界の一部であり、自然の恵みを大事にし、自然より学ぶ」ということ念頭に置いてきました。今の世の中の風潮は、人間が自然界の頂点であり、自然を凌駕しているという傲慢さが目についてなりません。謙虚さというものを失いつつあるようです。このような風潮は医療の世界にも押し寄せ、自然との共存よりも、自然を超えて病気の原因を排除する医療が、全盛を極めています。そのような見方も現代医療では必要ですが、これだけでは不十分です。このような現代医療全盛の中ですが、最近では伝統医学的な考えに目を向ける人が多くなりました。伝統を学ぶことは、古いものを大事にするだけではなく、その本質

を理解し、それを現代的に生かして次代に伝えることだと教わりました。『温故知新』をアレンジしながら次の世代に継承していくといったところでしょうか。「自然より学ぶ」ことの本質を、薬学生に伝えていきたいと思っております。

研究の面ではこれまで縁あって、糖質の科学を中心に行ってきました。高等動物の細胞表面に存在する複合糖質糖鎖が、細胞間の認識現象に深く関わった分子種であることが明らかになりつつあります。一方、無脊椎動物の持つ糖鎖は、単離構造決定にとどまり、機能解明にまで至っていません。そこで無脊椎動物から見出された新規な糖鎖を化学的に合成して、創薬への応用を試みてきました。現在は、特に寄生虫や海綿の持つ糖鎖に焦点を当て、前者は感染患者に対する診断薬開発をめざし、後者は抗腫瘍や抗炎症などの生物活性を指標に合成を展開しております。また、最近ではこれらの研究に加え、漢方薬の有効性に関する成分レベルの研究も始めています。

私はこれまでの経験及び現在学んでいることを理科大生に伝え、薬学教育、研究を通して理科大の発展に微力でも携わってきたいと思えます。今後、同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶

横山 英志（生物物理化学研究室）



平成28年4月より東京理科大学薬学部准教授として着任いたしました横山と申します。主に物理化学の講義や実習を担当しています。私は、栃木県出身で、東京大学薬学部を卒業後、同大学院薬学系研究科の修士課程、博士課程を修了しました。そしてつくばの産業技術総合研究所で4年間ポスドクとして研究を行った後、静岡県立大学薬学部で助手、助教、講師として10年間勤務して参りました。私は、大学で初めて研究室に配属されてから今日まで、X線結晶構造解析を主な手法とした物理化学的アプローチによってタンパク質の構造生物学的研究を行って参りました。研究対象は、疾患に関わるタンパク質や創薬のターゲットとなるタンパク質で、それらのタンパク質の構造と機能を原子レベルで明らかにするこ

とにより、病因の解明や創薬につながる構造基盤を得ることを目指しています。

このたび本学薬学部であらたに生物物理化学研究室を立ち上げることにになりました。これまでに培ってきた経験を生かし研究に全力で取り組むとともに、研究室の学生には研究の面白さを伝えて参りたいと考えています。また静岡県立大学薬学部では薬剤師養成と研究者育成の両面が求められている薬学教育に携わって参りましたので、その10年間の薬学教育の経験を生かし、今後も医療や生命科学分野において活躍する高度専門職業人の育成に尽力して参りたいと思えます。まだまだ不慣れな点も多い私ですが、本学の発展に貢献するため尽力して参りたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年度東京理科大学薬学部地区交流会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度の地区交流会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申しあげます。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

平成28年 6 月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 石井 甲一

■日時：平成28年10月9日（日）19：30～

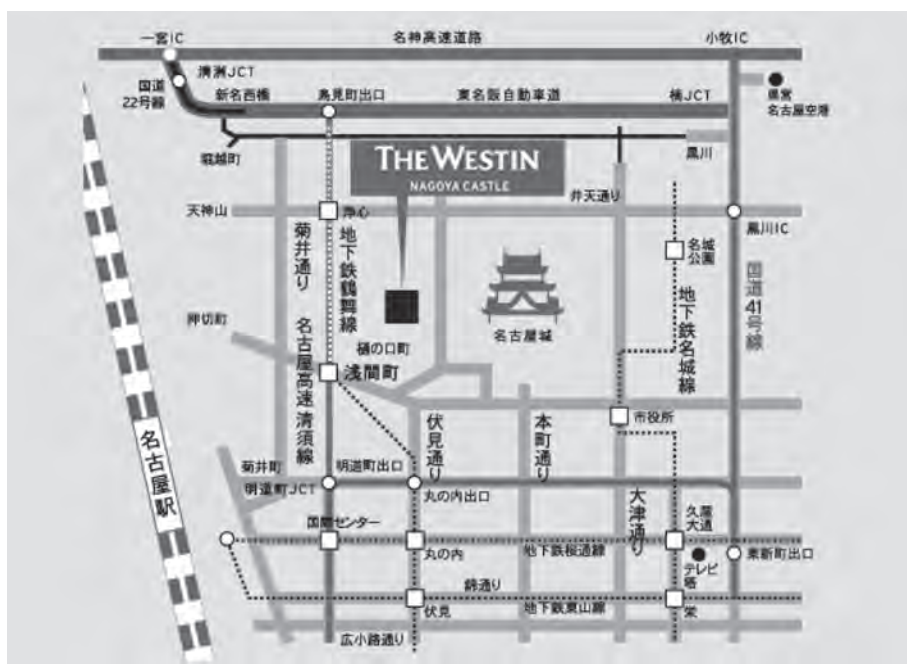
■場所：ウェスティンナゴヤキャッスル 『金の間』

〒451-8551 愛知県名古屋市西区樋の口町3番19号

TEL 052-521-2121 FAX 052-531-3313

URL <http://www.castle.co.jp/wnc/>

学術大会懇親会会場と同じホテル



■会費：5,000円

※ 当日 会場にて徴収させていただきます。

■申込：会場確保の都合がございますので、地区交流会に参加される方は、下記のとおり事前にお申し込みをお願い致します。電話での受付は致しません。

【申込期限】 9月26日（月）まで

【申込方法】

- ・同窓会ホームページの地区交流会申込フォームにアクセスし、お申込みください。
- ・下記内容を明記のうえ、東京理科大学薬学部同窓会事務局宛にご連絡ください。

氏名、卒業期、ご住所、電話番号

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

地区交流会のご案内を掲載しておりますのでご覧ください。

【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

9 期同期会開催のお知らせ

オリンピックイヤーに開催しております恒例の同期会を恒例の通り開催いたします。会場も恒例の飯田橋のイタリアンレストラン「トリノ」で、9月3日土曜日 午後4時より開催いたします。

多くの方の出席をお待ちしております。

尚、案内状のご返事は7月末までに返送ください。

幹事：清水 澄子（旧姓 小川）
平井 利生
武尾 勝司

お知らせ 14期同期会

2016年10月30日日曜日

場所：理大葛飾キャンパス 出会いの広場 11時集合
ホームカミングデーに参加しその後は柴又へ移動し会食。その後柴又を散策

幹事（会田・関根・谷口・野口・室田・岩崎）

代表連絡先03-3693-4673岩崎まで

東京理科大学薬学部15期生の会開催のご案内

皆さんこんにちは。2年に1回の理科大薬学部15期第4回同期会を開催します。今回4回目を迎えます。どうか皆様奮ってご参加下さい。盛大に飲みましょう！！

記

日時：2016年7月23日（土）18：00～21：00
会場：理窓会倶楽部（PORTA）6F 前回と同じです
新宿区神楽坂2-6-1 PORTA神楽坂6F

（TEL：03-3269-1570）

<http://risoukai.com/guide2.php>

交通：飯田橋駅より神楽坂を少し上がった左歩道側です。
会費：6,000円（予定）詳細につきましては、往復ハガキにて連絡します。

発起人：日向章太郎（会長）、高橋正史、菅原伸治、
和田浩志、長谷川富喜子、谷口隆雄

理科大薬学部16期同期会 会告

今年はリオデジャネイロでオリンピックが開催されます。それと同時にオリンピックイヤーの恒例となりました薬学部16期生の同期会の開催年でもあります。我々の卒業は1979年3月でした。つまり、16期の同期は全員が今年度中に『還暦』を通過する、または通過しているという、大変おめでたい年にあたります。

そこで今回の同期会は『還暦越え記念大同期会』として下記のように開催いたしますので、どうか奮ってご参加下さい。（今回幹事：遠藤、阪本、藤倉、清水、穂坂、河部）

【記】

日時：2016年11月12日（土） 12時～15時
場所：ホテル椿山荘タワー棟 6F『さくら』
（文京区関口2-10-8）

*詳細、出欠などは、個別ご案内いたします。

*9月頃メールにて詳細をご案内しますが、スマホへの機種変更等でメールが届かない方が増えています。16期生メールリストにアドレスを登録されていない方、登録の確認をされたい方、最近メールリストの連絡を受信されていない方は以下の河部のアドレスまでご連絡ください。（お名前、旧姓もお忘れなく！！）（E-mail：fm.kawabe@nifty.com）

理科大薬学部21期同期会 会告

我々21期が卒業したのは1984年です。この30年超の間、我々は同期会を実施しておりませんでした。そして、今年、たまたま、同窓会の幹事年となり、同窓会の後に同期会を開催いたします。

- －あの頃は未だ髪もふさふさあったのに(Fくん、Nくん)
- －えっ、その後、医学部に行って今はお医者さん？(Wくん)
- －当時から栃木なまりが変わらない(Fくん、Nくん)
- －えっ、娘さんが薬学で後輩？(Yくん)
- －海外で活躍中なんだ(Hくん)
- －田舎で活躍中なんだ(Nくん)

そんな話をしませんか？はじめての同期会を下記のように開催いたしますので、どうか奮ってご参加下さい。総会に参加できないけれど、同期会からの参加でも大歓迎です。

(幹事：当時Aクラス飯野(旧姓、高瀬)、Bクラス吉田(雅))

【記】

日時：2016年7月23日(土) 19時30分～21時30分

同窓会総会、講演会、懇親会の後です。

場所：鳥どり 総本家 飯田橋店

*詳細、出欠などは、個別ご案内いたします。

*住所、メール等解っている情報から連絡をします。同窓会にメールリストにアドレスあるいは住所を登録されていない方以下の吉田(雅)のアドレスまでご連絡ください。

(お名前、旧姓もお忘れなく!!)

(E-mail: masahito.yoshida@inventivhealth.com)

放射関係研究室同窓会のお知らせ

放射関係研究室(薬学部)の同窓会開催のご案内をいたします。

■日時：平成28年10月2日(日) 13:00～15:30(予定)

■場所：アルカディア市ヶ谷(予定)

■所在地：東京都千代田区九段北4-2-25

■電話：03-3261-9921

■会費：8千円程度(予定)

後日、メール又ははがきにてご案内いたします。
お誘い合わせの上、ご参加下さい。

連絡先：佐藤岳幸(22期)

E-mail: takeyukis@hotmail.com

幹事：佐藤岳幸、中谷優子、中村智子、世利重実、
八戸昌秋、高橋珠代(以上22期)
佐々木正大(32期)ほか

平成27年度地区交流会報告

平成27年11月22・23日に鹿児島で第48回日本薬剤師会学術大会が行われました。それに合わせて22日の19時30分から錦江湾を挟んで桜島を目の前に見るサンロイヤルホテルの最上階のスカイラウンジで地区交流会が開催されました。桜島の警戒レベルが一時4に引き上げられたので当日何もしなければと願っておりました。当日桜島は静かな状態でほっとした反面、県外から見てくれた方々に地球が活発に活動しているところを見てほしいとも思いました。石坂先生・砂金先生はじめ11期の石井会長夫妻から42期の山田氏まで幅広い年代の同窓生が参加されました。鹿児島の寺脇先輩より鹿児島の食材に合わせた



美味しいお酒の差し入れもあり、お酒・料理に舌鼓を打ち眼下に鹿児島市内の夜景を見ながら約2時間みんなで歓談しました。鹿児島からは県会議員になった28期の宝来氏も参加され、若い後輩たちが多方面で活躍されている話を聞き大変頼もしく思いました。立場は違うものの

理科大薬学部という同じ釜の飯を食べた者同士、会って話せばすぐに気持ちは通じ合えるものです。全国各地で開催される地区交流会、次回は名古屋でお会いしましょう。
(12期 飯塚 忍)

第20期同期会報告

平成27年7月25日に開催された薬学部同窓会の通常総会、講演会、それに続く懇親会のあと、午後8時から20期同期会が飯田橋の居酒屋「茶き茶き」で開催されました。私たち20期が同窓会総会の当番幹事であったことから、同窓会に続いての参加者が18名、同期会からの参加者が14名、合計32名と当初の予想を超える同期の仲間が、国内はもちろん、海外からも集まりました。在学中は顔も名前も知らなかったとか、外の夜景が綺麗であるとか、そんなことには全く関係なく、古色蒼然たる5号館やホルスタイン校舎で学んだあの頃に一気に戻り、あちこちで懐かしい話に花が咲きました。卒業後32年目で初めて言葉を交わした人もいたようですが、そこは同じ講義を受け、同じ実習をした同期の仲間。学科も研究室も関係なくすぐに打ち解けて盛り上がり、賑やかすぎて(うるさすぎて(笑))隣の人の話が聞こえないほどでした。同窓会の懇親会終了後の開始ということで、旧交を温めるには十分な時間をとることができませ

んでしたが、東京オリンピックの頃には次回の同期会を開きたいね、ということで2時間余りの会はお開きとなりました。昭和58年に卒業してから初めての同期会でしたが、次回は一人でも多くの仲間に連絡をとり、より賑やかな会にしたいと思います。同期会の開催にあたり、ご援助をいただいた薬学部同窓会に感謝申し上げます。
20期 小松 俊哉



理大薬学部第5期生 同期会の皆様

猛暑、豪雨の8月からあっという間に秋がやってきました。

秋晴れの10月18日(日)東京八重洲のフクラシア東京ステーションにおいて「理大薬学部第5期生 同期会」を開催し、全国各地から総勢43名の仲間が集まってくれました。

卒後47年が過ぎ、全員が古希を迎え、シルバーシートに堂々と座れる世代になりました。我々の入学した昭和39年は東京オリンピックが開催され、奇しくも、昨年には2020年のオリンピックが日本で開催されることが決ま

りました。運が良ければ我々の仲間の多くは観戦できるでしょう。

これまでは3年ごとの開催でしたが、今回は1年7ヶ月での開催となりました。

回を追うごとにフランクな会話が弾み、全員が近況を語ってくれました。また二次会には参加者のほとんどが出席したことは幹事一同の喜びです。会場での記念写真も文明の力を活用し、その場で渡せるように工夫し、欠席の仲間には後日全員に集合写真を送りました。

卒後47年の間に我々は様々な人生を送ってきました。

その軌跡の結果が現在ですが、これからも「今が大切」
「無事これ名馬」を合言葉に次回（平成29年3月26日予定）
開催を約束し、秋晴れのさわやかな一日を過ごせました。

皆さまありがとうございました。

平成27年10月吉日
第5期生同期会幹事一同



第39期生同窓会の報告

2016年3月20日（日）17時より神楽坂の日本出版クラブにて、2002年に卒後14年ぶりに初めての同窓会が開催されました。

遠方からも集まれる様にと3連休の中日に幹事の田口さんに企画いただき、お忙しいところ全国各地より57名と多くの方々にご出席いただきました。

久しぶりに懐かしい面々に会い歓談いたしましたが、皆さん14年の年月を全く感じさせないくらいお変わりなく、正直とても驚きました。

海外で薬剤師として活躍している仲間、帰国しその経験を全国各地で講演している仲間、大学病院・市中病院の薬剤部や民間の薬局・ドラッグストアで活躍している仲間、企業で研究・開発・営業・その他広範な分野で活躍している仲間等、本当に幅広い分野で皆さんご活躍されていることが窺い知れ、歩んでいる道は皆夫々であっても、信念は互いに通じ合う

ものがあり、本当に良い意味で刺激を与え合う非常に良い機会になったものと考えます。

大学在学中は、正直実感も無かったのが実状ですが、理科大薬学部というブランドの大きさに卒後触れる機会も、皆さん少なからずあったのだと思います。

社外で医師や薬剤師にふと学歴を尋ねられ、理科大薬学部と答えるだけで何故か先方の信頼感が増している感触を得る場面、私自身（派閥等全く存在しない風通しの良い企業に属しておりますが）社内でも本当に多くの理科大薬学部OB・OGが幅広い分野でご活躍されており、



奇遇ですが直属の上司と本部長が理科大薬学部出身者であることを知った際は本当に驚きました。

この理科大薬学部ブランドの名に恥じぬよう、また今後更にブランドを高められるよう、本当に身の引き締まる思いであります。

次回以降の同窓会については、「オリンピックイヤーに」と当日に大多数のご意見を集約し決定しましたので、次回は4年後の2020年東京オリンピックの年に開催を予

定しております。想像するに、年齢としても皆さん40歳を過ぎ、徐々に責任を有するポジションにてご活躍されている方も出てくる頃ではないかと考えます。

次回の再会を心待ちにすると共に、皆さんのご活躍を心より祈念し、私自身もそれまでに更なる成長が出来るよう日々精進して参りたいと考えます。

最後になりましたが、同窓会からのご寄付に感謝申し上げます。
(39期 藤原 優)

3 期生同期会報告

薬学部3期卒業生の同期会を平成28年4月3日桜満開の外堀公園を見降ろす市ヶ谷アルカディアで開催しました。参加者は同期卒業の約1/3に当たる48名。

今年は卒業50周年。現在もご健在の恩師をご招待する計画でしたが、3名の先生がご病気やお家のご都合で欠席となり、山川浩司先生お一人にご臨席頂きました。

山川先生から理大薬学部が日本で初めて「薬学概論」の講座を始めた事や、極めて厳しい進級試験制度で教育した事、国家試験全員合格等当時の私立大学薬学部の中で新設校として極めて高い評価を受けた事など、お話を伺いました。

思えば1科目でも及第点が取れなければ落第と云う物理学校時代からの進級試験制度のため我々は真剣に勉強した。国家試験全員合格が一期生からの使命だったし、伝統を作る思いだった。現在の理大薬学部の高い評価は

一期生を始めとした創始期の学生と教授陣の努力がその基礎を築いたと思っている。

懇親会は卒業生総代を務めた奥貫さんによる乾杯でスタート。入学時のクラス別や卒研研究室の集合写真、同期会のスナップ写真等のスライドを見ながら学生時代に振り返り互いに旧交を温めました。今や73才になり、耳が遠くなりつつある今も薬剤師で仕事を続けている同期生も多く、国家資格の有難さを感じている。我々ももう直ぐ後期高齢者。身体に不安を抱える同期生も多い。健やかな内にまた再会する事を期待し懇親会を終了した。

最後に、恩師の榊原仁作先生の一日も早いご快癒を同期生一同お祈り申し上げます。

お元気になられたら又お会いしましょう。

文責：3期生同期会世話人 星野 孝道



24期同期会報告

薬学部製薬学科（現在の生命創薬学科）24期同期会を4月24日（日）12：30－16：30に森戸記念館第一会議室で行いました。大学を卒業してから30年近くの年月が経過しました。我々が学生の頃は神楽坂校舎でしたが、現在は薬学部は野田キャンパスに移り、最新の実験・研究設備が整備され、大変よい研究環境にあります。また4年生から6年生に移行し、薬学部の教育体系も大きく様変わりしました。同期会も前会の2004年に開催してからも10年以上が経っていますが、今回は計36人の方に日本各地から御参集していただき、旧交を温めさせていただきました。病院薬剤師、薬局、製薬企業等の医薬品開発の第一線で活躍している方が多く、また私生活でも、子供が大学生になったり、就職している人も多く、中には親子2代で東京理科大学という方もいました。一人1分間のスピーチをお願いしたのですが、30年の年月は長く、平均で一人3分以上となって



しまいましたが、大変楽しい時間でした。この機会にE-mailやLINEによる連絡網を整備しましたので、今後も定期的に24期同期会を開催していきたいと考えています。最後に24期同期会を開催にあたり、薬学部同窓会からお祝い金をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

24期同期会幹事代表 浜田知久馬

福室研同窓会報告

福室研究室（高木研究室）同窓会が平成28年4月16日18：30よりPORTA神楽坂で開催されました。

16期卒業から34期卒業までの49名の参加者がありました。初めての研究室同窓会ということもあり、各地から多数の同窓生が集まりました。研究室同窓会の為、幅広い年代の参加者です。最初に福室先生からの近況報告などご挨拶をいただき、薬物治療学を引き継いだ青山隆夫先生に乾杯のご挨拶をしていただきました。しばらくは同世代の参加者中心に旧交を温めていました。その後、同期生毎に福室先生、大淵先生に語りかけるように、近況報告をし

ました。皆さんいろいろな分野で活躍されており、当研究室卒業生の多様性に驚かされました。福室先生、大淵先生に記念品贈呈後、先生方を囲んで記念撮影を行いました。終始和やかな雰囲気に包まれ、あっという間の2時間でした。

川村 勝美（26期）



平成27年度同窓会通常総会について

平成27年7月25日（土）の午後、東京・飯田橋にあるインテリジェントロビー・ルコにおいて、平成27年度通常総会が開催されました。出席者は総勢44名でした。総会担当は第20期が務め、司会の小松俊哉の開会宣言、石井甲一会長の挨拶があり、次いで金澤幸江氏（12期）が議長に、青山隆夫氏（17期）および若松正克氏（26期）が議事録署名人に指名され、事務局の冨塚朋子氏（16期）が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

1. 平成26年度事業報告
2. 平成26年度決算報告及び監査報告
3. 平成27年度事業計画案
4. 平成27年度予算案

以上の議案審議終了後、小松より閉会宣言を行いました。

20期 小松 俊哉

第一号議案 平成26年度事業報告

1. 同窓会会報「ふなかわら」第26号の発行
平成26年6月
2. 平成26年度実践社会薬学講座の開催
平成26年4月12日～5月31日（毎週土曜日7日間）
3. 同窓会通常総会の開催
平成26年7月26日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「ドーピング防止活動について」

講演者：

日本体育大学

スポーツ医学（内科系）研究室 教授

成田 和穂 先生（19期）

「スポーツファーマシストの活動について」

講演者：

株式会社ファークス

ファークスひかり薬局

對崎 利香子 先生（19期）

懇親会

4. 地区交流会の開催 平成26年10月12日
第47回日本薬剤師会学術大会（山形）で交流会開催
5. 平成26年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成26年10月18日
6. 新会員勧誘 資料を246名に送付
平成27年1月17日
平成27年3月卒業者（52期）41名、大学院修了者4名が会費納入
7. 卒業生・修了生全員（241名）に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈 平成27年3月19日
8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈 平成27年3月19日
9. 同期会開催（3期、4期、6期、15期、16期、19期）
放射研究室同窓会開催
同期会に際し、祝金3万円を贈呈（4期、6期、

15期、19期）

10. 2010年度版名簿の販売
11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会は欠席
12. ホームページのメンテナンス
13. 幹事会の開催（4回）
平成26年4月5日、7月26日、11月1日
平成27年1月24日
14. 正副会長会の開催 平成26年7月4日

第二号議案 平成26年度決算報告及び監査報告

平成26年度会計報告				
東京理科大学薬学部同窓会				
平成26年4月1日～平成27年3月31日				
収入の部	金額	支出の部	金額	摘要
内訳		内訳		
同窓会費	2,600,000	人件費	470,718	アルバイト代
名簿購入代	8,800	通信費	13,087	さくらインターネット
名簿賛助金など	0	諸案内状印刷費	1,052,643	ふなかわら印刷費（普通印刷）
預金利息	2,745	郵便代（宅配代も含む）	68,848	郵便代・宅配代
初会懇親会参加費	330,000	講演会謝金	50,000	講師謝礼
地区交流会懇親会参加費	140,000	総会経費	91,893	会場費・研修シール代
寄付金	83,999	総会懇親会費	310,320	図書券 2,000円×25名
		実践社会薬学講座謝礼	50,000	
		実践社会薬学情報交換会費	80,000	
		卒業謝恩会費	100,000	
		卒業記念品代	162,000	記念スパーテル250本
		交際費	30,780	事務諸費 お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	120,000	4期分（4期、6期、15期、19期）
		地区交流会懇親会費	148,000	
		全薬科大学薬学部同窓会協議会費	0	
		文具・事務経費	41,887	
		ホームページ維持費	80,000	
		雑費	56,000	返金（重機費、名簿代等）
		資産へ繰り入れ	237,581	
合計	3,142,747	合計	3,142,747	
資産内訳				
郵便局預貯口座	1,815,988			
定期預金	4,527,997			
普通預貯金	9,058,822			
普通預貯金（名簿用）	1,971,784			
現金	338,531			
計	17,514,133			
平成27年 7月 1日				
会計			同窓 野子	
監査報告				
会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。				
平成27年 7月 15日				
会計監査			青山 隆夫	
			草本 記子	

第三号議案 平成27年度事業計画案

1. 同窓会会報「ふなかわら」第27号の発行
平成27年6月

2. 平成27年度実践社会薬学講座の開催

平成27年4月11日～5月30日
(毎週土曜日7日間)

3. 同窓会通常総会の開催

平成27年7月25日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「医療安全に関するトピックス：
医療事故調査制度について、いま知っておきたいこと、準備しておきたいこと」

講演者：九州大学大学院医学研究院
医療経営・管理学講座 准教授
九州大学病院 病院長補佐
鮎澤 純子 先生 (20期)

懇親会

4. 地区交流会の開催 平成27年11月22日
第48回日本薬剤師会学術大会（鹿児島）で交流会開催

5. 平成27年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成27年10月17日

6. 新会員勧誘 資料を送付 平成28年1月

7. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈 平成28年3月

8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈 平成28年3月

9. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈

10. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への協力

11. ホームページのメンテナンス

12. 理窓会関連団体加入

13. 2015年度版名簿について検討

14. 幹事会の開催

(平成27年4月4日、7月25日開催)

平成27年10月、平成28年1月を予定)

15. 正副会長会の開催（平成27年6月30日）

第四号議案 平成27年度予算案

平成27年度収支予算案			
東京理科大学薬学部同窓会			
平成27年4月1日～平成28年3月31日			
収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,775,000	人件費(アルバイト代)	550,000
総会懇親会参加費	200,000	通信費(さくらインターネット)	30,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	印刷費(送付) (ふなかわら)	1,080,000
		郵便代(宅配代も含む)	80,000
		講演会謝金	50,000
寄付金など	22,000	総会経費	100,000
預金利息	3,000	総会懇親会費	200,000
		薬師社会薬学講座謝礼(図書券2,000円×20名)	40,000
		薬師社会薬学情報交換会費	80,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパーテル)	200,000
		文房具(事務用) (お中元・お歳暮)	30,000
		同窓会協賛金(3期分)	80,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		全国薬科大学薬学部同窓会協議会費	50,000
		文具・事務経費	200,000
		ホームページ維持費	80,000
		予備費	50,000
普通預貯金(名簿西)取崩し	1,800,000	名簿作成費	1,800,000
合計	5,000,000	合計	5,000,000

平成27年度同窓会講演会について

平成27年7月25日(土)同窓会第二部の特別講演では、20期の九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授 鮎澤純子先生から「医療安全に関するトピックス：医療事故調査制度について、いま知っておきたいこと、準備しておきたいこと」という演題でご講演いただきました。

鮎澤先生は、薬学科をご卒業後、大学病院薬剤部で薬剤業務に就かれましたが、その後、東京海上メディカルサービス株式会社に転職され、ベスイスラエルメディカルセンター(ニューヨーク)附属施設・東京海上記念診療所事務長を経て、業務部メディカルリスクマネジメント室課長、次長として、メディカルリスクマネジメントについての専門性を磨かれました。2001年4月九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座・助教授にご着任、2006年10月には同大付属病院病院長補佐となられ現在に至っております。厚生労働省の医療安全対策に関わる委員会委員を務められるなど、まさに、日本での医療の安全管理・質管理・リスクマネジメント領域での第一人者になられております。

医学は着実に進歩を遂げていますが、真の意味での医療の質向上には十分な安全性確保が必須です。そのためには医療事故の再発防止が重要です。日本で初めての医療事故調査制度が2015年10月に動こうとする中、この制度策定に深く関わってこられた先生から、本制度の意義、どのような事象が医療事故か、どのように医療事故の調査を行うべきか、調査からどのように原因を導くか、調



鮎澤純子先生

査を基としてどのように事故再発を防止できるか、医療事故が起こった際の患者や家族の対応、それに対する医療従事者の対応など、医療事故調査制度の概要をご説明いただきました。

先生のご講演は、私ども医療従事者、製薬業界人、薬

学教育者など薬学を学んだものにとって有意義であっただけでなく、同期生の中に先生のようにアグレッシブに活躍されている方がいらっしゃることに、少し疲れかけてきた我々にとって大いに刺激となりました。

20期 根本 清光



1－19期



20期



21期以降

会員名簿について

薬学部同窓会は5年毎に名簿（CD-ROM版）を発行しております。2015年度が発行年となっておりますが、発行いたしておりません。幹事会で検討をしました結果を以下に記します。

1. 個人情報の扱いが厳しくなり、名簿としての機能を満たさなくなってきた。
2. 冊子形態は保管や廃棄の問題で今後も難しい。
3. CD-ROM版はOSのバージョンアップにより過去のデータが開けない等の問題がある。また、冊子とは違い検索には優れているものの俯瞰的閲覧に適さないため、ほとんど利用しない。

などの意見がありました。これにより2016年度に会員データベースをインターネットによるWEB版に変更することになりました。これにより年度内に会員IDとパスワードをお送りしますので、会員個々で変更や修正、また項目毎の閲覧の有無を決めていただき、公開を許可している会員の情報のみが閲覧できるシステムを検討しております。詳しくは別途ご連絡いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

東京理科大学薬学部同窓会事務局

薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また 本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして 本年度から新たな同窓生となりました平成28年3月卒業生53期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の真心と会費により運営されております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

平成28年度会費納入のお願い

平成27年度に引き続き、平成28年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会

費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円（何年分でも納入できます）、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願いいたします。

（終身会員・∞）

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

（平成××年度まで済み）

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

（平成28年度・お願い）

平成28年度会費 未納の会員の方：よろしくお願いいたします。

平成27年度 会費納入額詳細（平成28年3月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
平成27年度卒業・修了者	54,000	3	1,105,000	37	0	0	1,159,000
既 卒 者	328,000	52	1,275,000	26	59,000	5	1,662,000
合 計	382,000	55	2,380,000	63	59,000	5	2,821,000

薬学部同窓会会員数（平成28年3月31日現在）

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	9,459名	2,020名	950名
大学院修了生	214名	18名	8名
合 計	9,673名	2,038名	958名

物理学校と小説『坊っちゃん』 ～夏目漱石没後100年によせて～

平木国際特許事務所 弁理士 河部 秀男（16期生）



理科大のイメージキャラクターは夏目漱石の小説から『坊っちゃん』と『マドンナちゃん』だそうです。小説『坊っちゃん』の書かれた背景やそのモデル論に関しては昭和初期に朝日新聞等でほぼ解明されているのですが最近では忘れられているようです。私の義理の大叔父中堀貞五郎は物理学校2人目の卒業生、松山中学で漱石の同僚でした。本年は漱石の没後百年、漱石の小説『坊っちゃん』と物理学校の関係等を簡単にご紹介します。

今治生まれの中堀は師範学校卒業後愛媛の小学校教諭をしていましたが、明治17年27才で上京、開学間もない物理学校に2期生として入学しました（写真1）。中堀は小学校の教師を務めながら、夜は物理学校で勉学を重ね、明治19年に物理の中学教員免許を取得、明治21年松山の伊豫尋常中学（後の松山中学）へ物理の教師として赴任しました。



写真1 右端が物理学校2期生 中堀貞五郎（1857～1947）の物理学校1年時の写真（明治18年2月撮影）

中堀考志著、『レメモワール（思い出の記）』昭和62年、自費出版より引用

夏目漱石は高田馬場から神楽坂までを支配する牛込馬場下の町方名主夏目家の五男として生まれました。ただ生後すぐに倒幕派に家が襲われ、その後世襲制の名主制度も廃止されます。漱石は里子、養子と子供の頃は不遇な扱いを受けながらも勉学に励み、明治17年に大学予備門に合格、兄達が亡くなったため没落した夏目家を継ぎ

ます。当初は建築家を志望していましたが英文学に転向、明治26年漱石は東京帝国大学文科大学英文科を2人目の卒業生として卒業します。暫くは東京高等師範の講師を勤めますが校風に馴染めず、外人教師の後任として高額の給与を提示した松山中学へ明治28年4月に赴任します。

『坊っちゃん』は、明治28～29年の漱石の松山滞在時の経験を基にまとめられた小説ですが時代は小説執筆時の明治39年に設定されています。また『坊っちゃん』は1人の人間をモデルとして忠実に描いた作品ではありません。松山中学の同僚達は『坊っちゃん』では複数の人間の体験談を元に一人の人物とその行動が構成され、更に小説を面白くするために新たな創作も加えていると語っています。

職員室の渾名がボンチ（坊っちゃん）のため主人公のキャラのモデルとされた弘中又一氏は、『政和先生追想録』の中でモデルと小説との関係を「実際の所、小説『坊っちゃん』の一部一部には根拠がある。事実がある。モデルがある。幾度読んでも可笑しくてたまらぬが、それでは何の役は誰かと問われると少し困る。数人一役、一人数役、分解総合取捨構成しているからである。一方、漱石はまめな男でそこいら手当たり次第遠慮会釈なくモデルに失敬する。よく調べて見ると、当時23名の教員中15名は何かの用を勤めさせられた。」と語っています。神奈川近代文学館のHP、「夏目漱石デジタル文学館」<http://www.kanabun.or.jp/souseki/list.html>（写真、肖像写真）の中に明治29年愛媛県尋常中学（松山中学）の卒業写真が掲載されています。この写真中、3列目左から2人目が道後温泉に通い詰め松山に湯治に來たと言われた漱石、2列目右からシッポク（けんちんうどん）4杯を平らげ生徒から説教された弘中又一とバツタ事件被害者の中堀貞五郎、3列目右から2人目が安倍元雄（物理学校卒）、5人目が山嵐のモデルだと言われる渡部政和、4列目右端が師範学校との乱闘事件を止めようとして逆にやられた山口善太郎です。

ボンチと呼ばれた弘中氏は山口県出身、明治27年に同志社普通学校を卒業し翌年5月から松山中学に赴任、数学科の主任渡部氏（山嵐）から低学年の数学を、漱石から低学年の英語を担当するように依頼されました。松山中学を漱石と共に僅か一年で離任していますが、性格は小説の主人公そのもので、後に熊谷中学、同志社中学で人気教師として活躍しました。弘中氏によると『坊っちゃん』刊行後、どこに行っても氏を物理学校出身と信じる

者が多く、物理学校の同窓会に招かれ一方ならず戸惑ったこともあったそうです。

小説中、殆どが偽名化している中で、物理学校だけが主人公の出身校として実名で記載されていることに関心が持たれますが、弘中氏は「同僚の物理学校出身の数学教師安部元雄氏（渾名は鈍角）と出身校を入れ替えたのであろうが、主人公が数学の教師なので数学の教師といえど同志社よりも物理学校のほうが似合うからだろう」と推測しています。一方、明治39年の執筆時の状況を考えますと、物理学校は神楽坂に新校舎を建設中、かつては神楽坂も治めた名主の家長である漱石には地元の物理学校を紹介したいという思いもあったと思います。また漱石は中堀に英文書籍に出てくる物理の原理を自分が理解するまで説明させるほどの科学好き、主人公の出身校に物理学校という斬新な名前を使いたかったのかもしれない。

中堀は小学校教師時代の渾名が唐茄子だったことから、小説では「うらなりの唐茄子ばかりを食べ過ぎて顔が青くなった」ウラナリという渾名を頂戴しているようです。漱石に二度目の下宿を世話しましたが、この下宿は漱石の親友正岡子規が居候して句会を開催したことから愚陀仏庵として有名になりました。バツタ事件も中堀が宿直の時に被害にあい、それを見ていた漱石が小説のネタにしたものだそうです。中堀は明治22年に子規の妹正岡律と結婚しましたが直ぐに別れ、翌年先輩教師の娘、美人で性格も良いと評判だった太田律（一名ふじ）と結婚し、漱石赴任時にはふじと幸せな家庭を築いていまし



写真2 漱石が会った中堀夫人 中堀ふじ（1871～1898）
中堀誠二編、『中堀彦吉 書簡集』昭和50年 より引用

た（写真2）。従って、ウラナリが赤シャツとマドンナを取り合う事件に関しては漱石赴任前に起きた、歴史教師と博物教師の美女を巡る争奪戦をネタにしていると言われています。

明治38年頃、松山中学に漱石から在任中の思い出を綴りたいが調べて欲しいことがあるとの手紙があり、中堀は漱石が紀要文でも書くのだと思い学内で記録を調べ回答しました。その内容も参考にして翌年執筆されたのが

小説『坊っちゃん』です。

その後漱石は大学を辞め朝日新聞専属の作家へ転身しますが、胃潰瘍を患い晩年は床につくことが多い日々を送ります。大正5年11月、小康を得た漱石は高名な建築家辰野金吾氏を父に持つ仏文学者辰野隆氏の結婚披露宴に参列したところ、急に様態が悪くなり2週間後に胃の出血で亡くなります。それから44年、辰野隆夫妻の次男辰野高司先生は昭和35年東京理科大学が新たに開設した薬学部微生物学研究室の教授に就任されました。後に理研に移られてからも薬学概論の講義を担当され、理科大薬学部学生の全人教育に尽力されたことを覚えている方も多いと思います。漱石が最後に結婚を祝ったご夫妻から生まれた辰野先生が、物理学校の後身東京理科大学の薬学部の発展に貢献されたことに牛込の名主漱石も草葉の陰で喜んでいたと思います。

以上

参考書籍

1. 漱石の生涯に関して

- ①『漱石の時代Ⅰ～Ⅴ巻』江藤淳著 新潮選書
- ②『夏目漱石 上、中、下巻』小宮豊隆著 岩波文庫
- ③『道草』夏目漱石著 新潮文庫

2. 坊っちゃんのモデル論等に関して

- ①『漱石文学のモデルたち』秦郁彦著 中公文庫
- ②『「坊っちゃん」先生 弘中又一』松原伸夫著 文芸社
- ③『英語教師 夏目漱石』川島幸希著 新潮選書
- ④『漱石氏と私』高浜虚子著 青空文庫

3. 辰野隆夫妻の結婚式と漱石の死について

- ①『忘れ得ぬ人々と谷崎潤一郎』辰野隆著 中公文庫
- ②『漱石の思い出』夏目鏡子述、松岡譲筆録 文春文庫

4. 当時の松山市、正岡子規、正岡律等について

『坂の上の雲 1～8巻』司馬遼太郎著 文春文庫



氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入

年

月

日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
	Eメールアドレス @						
勤務先	フリガナ 名称						
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
	Eメールアドレス @						
その他 連絡事項							

切り取り線

個人情報 は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jimmu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/> から個人情報変更できます。

MENU 同窓会事務局 → お問い合わせはこちらから → 個人情報変更



理窓会関連団体に参加し、同窓会の旗を戴きました

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館 1 F
FAX : 04-7121-4531 E-mail : jimmu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>
行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

本年も無事“ふなかわら”を皆様にお届けすることができました。感謝申し上げます。
毎年のことなのですが、GWが終わると、滞っていた仕事がドカンと襲ってきます。
そして、その同時期に、同窓会事務局から“ふなかわらの原稿が整いましたので確認お願いします”のe-mailが届きます。
GW中に執筆してくださった皆様に感謝しなくちゃいけないのに“あーめんどうだなー”と心がささやきます。しかし！
今回は、無駄に長いGW（まったく予定なし）、のおかげで（仕事しちゃったし）、皆様に心から感謝することができます。
ありがとうございます。
そして、ひとつ報告がございます。
本年から理窓会関連団体交流会に薬学部同窓会が参加したことで、上記写真に写っています薬学部同窓会の旗を理窓会からいただきました。
薬学部同窓会の行事（地区交流会等）には、どこかに提示するようにいたします。
そして、みなさまの同窓会行事への参加を心からお持ちしております。
本年も薬学部同窓会をよろしくお願いします。SA

平成28年度同窓会幹事一覧

小原 侃 (1)	松岡 隆 (8)	犬飼 陽子 (12)	関口 真紀子 (16)	長谷川 俊雄 (19)	若松 正克 (26)	浅井 将 (37)
黒崎 浩己 (1)	奥村 成太 (8)	田端 敬一 (12)	田畑 新 (16)	小松 俊哉 (20)	前田 真 (27)	藤枝 智子 (39)
山口 堅志郎 (1)	澤地 孝 (9)	伊藤 充朗 (13)	直子 (16)	飯野 直子 (21)	大瀧 充 (29)	有美里 (40)
生田 安喜良 (2)	武尾 勝司 (10)	高 賢一 (13)	和枝 敏行 (16)	吉田 雅人 (21)	神谷 貞浩 (29)	美里 (40)
鈴木 政雄 (3)	中島 敏夫 (10)	濱野 朋子 (13)	敏行 (16)	安藤 秀一 (22)	内村 兼一 (30)	至智 (40)
中村 洋司 (3)	原 しげ子 (10)	波田野 昭子 (13)	隆夫 (17)	磯部 政彦 (22)	水 高橋 (31)	友佳 (43)
池田 幸雄 (4)	石井 啓子 (10)	伊藤 文由 (14)	茂 邦之 (18)	総一郎 (22)	中川 瑞穂 (31)	由香里 (43)
柏木 敬子 (4)	安達 順一 (11)	石井 修 (14)	裕史 (18)	みどり (22)	佐々木 健二 (22)	弓子 (43)
山川 洋志 (5)	石井 甲一 (11)	岩崎 典子 (14)	宏二 (18)	健二 (22)	幸恵 (22)	恵子 (43)
山田 高照 (5)	小暮 涉 (11)	畑中 林 (14)	紀子 (19)	幸恵 (22)	和裕 (22)	惠子 (43)
湯田 康勝 (5)	岡宮 智子 (11)	菅原 伸治 (15)	知夫 (19)	和裕 (22)	直樹 (23)	洋典 (43)
植木 清一郎 (6)	富秋 英志 (11)	章太郎 (15)	康正 (19)	一成 (25)	野村 昌徳 (34)	あずさ (52)
藤井 幸子 (6)	向井 呈一 (11)	浩志 (15)	康正 (19)	伊集院 一 (25)	小島 香織 (34)	悠 (52)
石井 賢二 (7)	飯島 康典 (12)	健治 (16)	契典 (19)	小林 寧 (26)	松井 洋子 (34)	隆史 (52)
寺山 博行 (7)	金澤 幸江 (12)			靖之 (26)	宮田 正一 (35)	
					亮介 (37)	